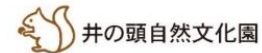
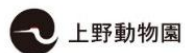


地球環境保全行動戦略(令和7年度～令和9年度)

令和7年度 実施状況報告 [本編]

地球のことは、私のこと。未来のことは、今のこと。



戦略 1 生物多様性保全への貢献

（１）飼育展示における取組

行動計画① 希少種の生息域内・域外における保全活動に多様な側面から貢献します		
主な取組	R7計画	R7実績
ズーストック種の飼育繁殖	30種以上	保全プロジェクト対象種も含め４園で39種（※）の繁殖に成功 ※当該種数は令和７年１月１日～12月31日の実績であり、複数園で繁殖した種は１種とカウントした。なお、第２次ズーストック計画では東京都環境局所管の大島公園動物園を含め40種の繁殖に成功した。 ＜例＞ 【上 野】11種（コビトカバ、シロテテナガザル、ルリカケス、保全プロジェクト対象種のオガサワラカワラヒワなど） 【多 摩】13種（５年ぶりに繁殖したボルネオオランウータン、チンパンジー、保全プロジェクト対象種のクロツラヘラサギなど） 【葛 西】９種（ウミガラス、イトピリカ、トウキョウサンショウウオ、ニホンアカガエル、ゼニタナゴ、ミナミメダカなど） 【井の頭】13種（４年連続で繁殖したニホンカモシカ、７年ぶりに繁殖したトウキョウダルマガエルなど）
環境省保護増殖事業との連携事業	環境省の実施する保護増殖事業への協力	環境省が実施する保護増殖事業について、計10種（小笠原陸産貝類、ミヤコカナヘビ、ライチョウ、トキ、オガサワラカワラヒワ、イヌワシ、アカガシラカラスバト、ウミガラス、トゲネズミ、ツシマヤマネコ）を対象に協力し、飼育下繁殖を通じて個体群の維持に貢献したほか、対象種ごとに以下の取組を実施 【小笠原陸産貝類、ミヤコカナヘビ】野生復帰や再導入に向けた知見を蓄積 【ライチョウ、ツシマヤマネコ】人工繁殖技術の向上に寄与 【トキ】継続的な放鳥候補個体の育成（令和７年度は６羽を佐渡へ移動し、放鳥候補として移動した累計個体数は100羽を超えた） 【オガサワラカワラヒワ】飼育下繁殖に動物園で初めて成功 【イヌワシ】生息域内と連携した保全活動に向けた情報の収集 【アカガシラカラスバト】大学との共同研究による繁殖に関する知見集積 【ウミガラス、トゲネズミ、ツシマヤマネコ】講演会やイベントの開催などを通じた普及啓発に貢献

戦略 1 生物多様性保全への貢献

（ 1 ） 飼育展示における取組

行動計画② 飼育下におけるアニマルウェルフェアの向上と維持を図ります

主な取組	R7計画	R7実績
アニマルウェルフェアに配慮した飼育管理	・ エンリッチメントやハズバンダリートレーニングの実施 ・ 令和 8 年度以降の目標件数設定	・ 4 園でエンリッチメントを実施 ＜例＞ 【上 野】146件（スマトラトラ：採食時間延長と行動レパトリーの増加を図るための毛皮付き鹿肉の給餌など） 【多 摩】135件（アフリカゾウ：電磁石とタイマーを使用した夜間の給餌器（フィーダー）活用など） 【葛 西】13件（ミナミイワトビペンギン：運動量の増加を目的とした夏季屋内収容中における放飼時間の創出など） 【井の頭】30件（アカゲザル：休憩場所や遊具としての消防ホース製ハンモックの設置など） ・ 3 園でハズバンダリートレーニングを実施 ＜例＞ 【上 野】アイアイ・スマトラトラの体重測定、アジアゾウ・ホッキョクグマの口腔内ケア、ジャイアントパンダの血圧測定など 【多 摩】モウコノウマ・インドサイ・チンパンジー・サーバルの体重測定、アジアゾウの削蹄など 【井の頭】ニホンアナグマ・ニホンカモシカ・ホンドテンの体重測定、ヤクシカ・ユーラシアカワウソの吻タッチなど ・ 令和 3 ～ 7 年度の実績に基づき、第 2 次都立動物園マスタープランの中で設定される目標件数に合わせて令和 8 年度に設定
アニマルウェルフェアに配慮した動物介在教育活動（ふれあいプログラム等）	・ 動物介在教育企画書の作成 ・ 大学と連携したモルモットのストレス評価 ・ 参加者の学びの評価	・ 動物介在教育活動のねらいやアニマルウェルフェアへの配慮などを企画段階で明確にするため、4 園で実施している10件の動物介在教育プログラムにおいて企画書を作成し、携わるスタッフ全員で共有 ・ モルモットが受けるストレス評価に関する大学との共同研究を 3 年間継続し、眼球表面温度の変化を指標とした手法での評価を多摩と井の頭のプログラムで実践することで、評価手法を改善 ・ 上野において継続して参加者が得た学びに関する評価をアンケート調査により実施し、テキストマイニングやAIを活用して分析したほか、葛西において「しおだまり」（磯の生きものの触察）での行動観察評価を実施

戦略 1 生物多様性保全への貢献

(1) 飼育展示における取組

行動計画③ 飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します		
主な取組	R7計画	R7実績
国内外の会議・学会における発表・報告	45件以上	88件（内訳：総務部12件 上野25件 多摩27件 葛西13件 井の頭11件） ＜例＞ ・トキ類の人工孵化・育雛（第33回日本飼育技術学会大会） ・Use of social media at Ueno Zoo（33rd SEAZA Conference 2025） ・オガサワラカワラヒワ 動物園における域外保全の取り組み（日本鳥学会2025年度大会） ・オジロワシ（<i>Haliaeetus albicilla</i>）における甲状腺腫の一例（第31回日本野生動物医学会大会） ・葛西臨海水族園におけるトビハゼの飼育と繁殖（第25回東京湾シンポジウム） ・オリオオコウモリで発生した低カルシウム血症について（第73回動物園技術者研究会）
学術誌への論文掲載	研究データの整理分析、執筆体制の構築等	職員が筆頭著者として6件の論文を発表（いずれも学術誌掲載）し、計画に掲げた研究データの整理分析及び執筆に向けた取組が着実に進展 ・「飼育下アイアイ（<i>Daubentonia madagascariensis</i>）の行動的保定による採血のためのハズバンドリートレーニング」（日本野生動物医学会誌 Vol.31 No.1） ・「飼育下ヒガシクロサイにおける雌の血中性ステロイドホルモン濃度動態に基づく発情期と雄の行動変化の関連」（動物園水族館雑誌 第67巻 第1号） ・「東京都多摩動物公園の陸生異翅亜目」（Rostria, No. 70） ・「Effects of <i>Clostridium butyricum</i> supplementation on fecal microbiota and metabolites in captive Red kangaroo (<i>Macropus rufus</i>)」（Journal of Zoo and Wildlife Medicine Vol. 56, Issue 2） ・「Changes in the microbiome and metabolome in captive red kangaroos (<i>Osphranter rufus</i>) affected by macropod progressive periodontal disease」（Australian Veterinary Journal） ・「過去22年間の葛西海浜公園西なぎさ（東京都）における魚類相」（日仏海洋学会 La mer 63巻）

戦略 1 生物多様性保全への貢献

（２）教育普及における取組

行動計画① より多くの来園者に向けて、多様な教育普及活動を展開し行動変容を促します		
主な取組	R7計画	R7実績
希少野生動物や生態系の保全を目的とした教育普及活動の実施	- 国際的な記念日にあわせた情報発信（年12件以上） - 講演会やシンポジウムの実施（年6回以上） 4園が連携した情報発信（年2件以上）	- 国際生物多様性の日のほか、各園で飼育する生物の国際的な記念日に合わせてパネル展示やガイド、Xでの情報発信を計20件実施 - 希少野生動物や生態系の保全をテーマとした講演会を計9回実施 ＜例＞ 【上 野】パンダの日記念講演会「ジャイアントパンダの未来をつなぐ」 【多 摩】「スカイウォーク20周年記念講演会」 【葛 西】「つどえ オロロヘン！講演会」、「Deep of Wonder—不思議な深海の生き物たち 深海トークショー」 【井の頭】身近な水辺保全講演＆観察会「ハクチョウと旅するスワンププロジェクト－知る、考える、水鳥のくらし」 4園が連携した取組として、東京文化財ウィーク期間中に各園で飼育展示している天然記念指定動物を紹介する解説カードの配布や特別ガイドを実施したほか、12月のエコプロ2025へのブース出展では、地球環境保全行動戦略に掲げた目指す姿や目標に沿って、4園の教育普及の取組を広く紹介（総ブース来訪者：3日間で1,698名）
東京の野生動物の現状や保全の取組を発信する教育普及活動の実施	- 身近な動物をテーマにした体験型プログラムの実施（年12件以上） - 普及啓発のためのリーフレットの制作・配布（8種以上）	- 身近な動物をテーマにした体験型プログラムを計12件実施 ＜例＞ 【多 摩】昆虫園飼育体験 【葛 西】幼児向けプログラム「進め！海のいきものたちーうみに行こう！」 【井の頭】文化園いきものクラブ「井の頭池いきものたんけん」 - 小笠原陸産貝類のリーフレット「マイマイの楽園」、アカハライモリのリーフレット「いもり学にゆうもん」を改訂したほか、これまでに作成した計11種のリーフレットを来園者やプログラム参加者、理科教育学会などの外部出展で配布するとともに、公式HPで公開
園内外の自然を活用し、自然環境の現状や変化、保全の重要性を学ぶ教育普及活動の実施	- 自然観察を目的とした体験型プログラムの実施（年12件以上） - 園内の自然観察ガイド等の実施（年12件以上）	- 自然観察を目的とした体験型プログラムを計21件実施 ＜例＞ 【4 園】夏の教員セミナー4コース 【上 野】池の生きもの観察DAY「しのばずの池をのぞいてみよう」、「はじめよう！バードウォッチング」 【多 摩】「ホタル観察会」、「ムササビの棲む森を見よう！」 【葛 西】東京の海を知る・おさかなプロジェクト合同プログラム「ラムサール条約登録湿地の人工干潟を訪ねる」 【井の頭】身近ないきもの探検「夜の文化園ではっけん！セミの羽化のひみつ」、「旅するタネ、どうやってどこへいくの？」 - 園内の自然観察ガイド等を計19件実施 ＜例＞ 【上 野】「サクラガイド」、「草木と花と冬支度」 【多 摩】「ヤマユリガイド」 【井の頭】「農園芸職員とめぐる文化園植物めぐり」、「ツバキガイド」

戦略 1 生物多様性保全への貢献

(2) 教育普及における取組

行動計画② 教育機関と連携し、地球環境保全に向けた環境教育をサポートします		
主な取組	R7計画	R7実績
教員ヒアリングや教員向けセミナーの実施	- 教員ヒアリングの実施（年5件以上） - 教員向け研修（新たなコースの開発、参加者増の工夫）	- 小学校4件・中学校4件、特別支援1件・学会1件の計10件実施（幼稚園・小学校・中学校等に出向き、4園の教育普及活動を紹介するとともに、学校での動物園・水族館の利用状況や要望をヒアリングし4園に共有） - 新たなコースとして「スイミーが会った生きものたちのひみつ」、「身近な水辺で体験！外来生物ってなあに？」、「動物園での生きもの観察の視点と導き方」の3コースを開発、実践したほか、教員向け研修のDMの送り先として東京都内・千葉県（葛西臨海水族園近隣）に加え、神奈川県（多摩動物公園近隣）を追加して送付したことにより、参加者は過去最高の735名を記録
次世代の担い手である中高大学生向け教育普及活動の強化	- 中高生向けレポートチャレンジ実施 - 中高大学生向けの教育プログラム実施（年8件以上）	- 中高生の動物園水族園利用を促す企画である「動物園・水族園レポートチャレンジ」には過去最高の915組（中学生705組・高校生210組）から応募があり、最優秀作品賞を4組（中学生3組、高校生1組）、奨励賞を6組（中学生5組、高校生1組）、ユニーク賞を3組（中学生2組、高校生1組）選出し、一部をHPで公開 - 中高大学生向けの教育プログラムについて、中高大学生向けに3件、大学団体向けに27件実施 ＜例＞ - うえのZOOスクール中学生コース「動物の給餌器をつくってみよう 一検証！野生に近い行動を引き出せるか？」 - 中高生向けプログラムサイエンスカフェ「話そう！聞こう！動物園の仕事」 - 高校生・大学生向け講座 海の学び舎「貝類を知り、世界を知る」（対面及びオンライン）
学校教員等との協働による新たな教材や授業の開発と実践	- パッケージ教材の開発（年3件以上） - 授業の開発・実践（年4件以上）	- 特別支援学校と協働で視覚障害のある児童向けの貸出教材を1件開発し、試行利用を実施。また、新たに教員からの要望が多い「どうぶつの赤ちゃん」、「モルモットをみよう・しろく・なかよくなろう」のパッケージ教材2件とを開発・公開したほか、これまで制作したパッケージ教材3件をHPのリニューアルにあわせて更新 - 中高生向けの「動物園・水族園レポートチャレンジ」企画をきっかけに、中学校3校を対象として出張授業や授業の協働開発・実践を計10件実施

戦略2 気候危機への対応

行動計画① 化石燃料由来エネルギーの消費抑制や利用効率化、再生可能エネルギーの利用に努めます

主な取組	R7計画	R7実績
省エネ型設備・機器、再生可能エネルギー設備の導入	- 既存設備の更新時に省エネルギー型機器への転換を推進 - 太陽光発電などの再生可能エネルギーの有効利用策を検討	- 既存設備の更新時等に省エネルギー型機器への転換を推進 【上野】 - 総合案内所ほか19箇所のLED化を実施 - 日本の鳥裏加圧給水装置及び池之端門トイレ脇加圧給水装置のポンプ設備更新時にインバーター設備を導入 【多摩】 - チンパンジー舎やサファリ橋などの照明器具を23基LED化等の高効率のものに更新 - フラミンゴ池循環装置のインバータ機器導入後の試算を実施 【葛西】 - 照明器具のLED化及び老朽化した機器の更新により、エネルギー効率の改善を推進 - その他、太陽光発電等の再生可能エネルギーの有効利用策を検討
緑のカーテンや遮熱フィルムなどを活用した温度環境の改善や空調効率の向上	- 緑のカーテンによる緑陰環境の創出 - 遮熱フィルムなどの日射対策実施	【上野】 - 両生爬虫類館、池之端門脇トイレ、パンダ観覧列に緑のカーテンを設置 【多摩】 - オオカミ舎の空調機の室外機に日よけを設置 【葛西】 - レストランシーウインドに緑のカーテンを設置したほか、遮熱シートの設置を推進 【井の頭】 - 本園入場券売り場横にヘチマとバタフライピーの緑のカーテンを設置するとともに、実った果実や花を園内動物の飼料として活用 - 園内藤棚を適切に管理し、緑陰を創出

行動計画② 園内樹木を適切に管理し、緑の充実・保全と良好な都市環境の形成に努めます

主な取組	R7計画	R7実績
園内樹木・樹林の良好な管理	適切な植栽管理を行うとともに、ナラ枯れ被害地の樹林再生を促進	【上野】 - 虫害予防のため樹幹注入を69本実施 【多摩】 - ナラ枯れ予防のための樹幹注入を31本実施、ナラ枯れ被害木470本の伐採 - 伐採後の樹林再生に向けた補植用苗木の育成作業を実施（実生木保護ほか） 【葛西】 - 定期的・臨時の樹木点検により、管理委託内容の見直しを実施 【井の頭】 - ツバキやフジの開花を補助するための剪定

戦略2 気候危機への対応

行動計画③ 地球環境に配慮した行動様式の見直しや事業運営の推進を図ります		
主な取組	R7計画	R7実績
省エネ、省資源、再利用の促進	・クールビズ、ウォームビズの一層の推進 ・執務室一斉消灯（総務部） ・省エネデイの設定（総務部）	・季節やその時々気温にあった服装で働くクールビズ、ウォームビズを継続的に実施 ・昼休み時間の一斉消灯による節電（総務部） ・省エネデイとして、土日祝日出勤人数の少ない日に不要な電気を消灯（総務部）
DXの視点を取り入れた業務プロセスの改善	・文書システムの機能拡張 ・決裁手続きのデジタル化検討 ・業務のデジタル化に関する要望等の聴取、整理、検討	・前年度に試行した10件のデジタル様式に見直しや追加を行った上で、計14件の申請事務をデジタル化し、先行して総務部と井の頭で実運用を開始 ・起案書類のデジタル化（電子決裁）に向け、市場調査及び関連団体の先行事例調査等、導入に向けた検討を実施 ・各園及び総務部の潜在的なデジタル化・DX要望について、アンケート調査による業務課題の洗い出しを実施
施設の長寿命化	予防保全的見地に立った施設補修・修繕、設備更新等の実施	【上 野】 ・ゴリラ・トラのすむ森観覧通路にて、防水補修と併せて舗装補修を実施 ・園内の22施設にて、屋根・雨樋清掃を実施し雨漏り対策を実施 【多 摩】 ・高圧電気区分開閉器の取替補修を実施 ・園内42施設にて、屋根・雨樋清掃を実施し雨漏り対策を実施 【葛 西】 ・排水処理所の老朽化対策工事により、躯体の補強を実施 【井の頭】 ・管理事務所の雨樋改修を実施し、抜本的な雨漏り対策を実施 ・外壁タイルの劣化が進行する彫刻館にて壁タイル補修を実施
ノンフロン冷媒等を使用する機器への転換	機器更新の際に、環境負荷の低い機器を順次導入	・各園飲食店舗において、ノンフロン機器への切り替えを実施 【上 野】冷凍庫 1 台新規設置、冷凍庫 1 台入替 【多 摩】冷蔵庫 2 台入替、冷凍庫 2 台入替 【葛 西】冷蔵庫 1 台新規設置、冷蔵庫 3 台入替 【井の頭】冷凍冷蔵庫 1 台新規設置 ・その他設備においても環境負荷の低い機器を導入 【多 摩】昆虫生態園の空調設備の機器更新にあたり、地球温暖化係数の低いR32を冷媒にした機器を選定

戦略3 循環型社会への寄与

行動計画① 各種資源使用量の削減と再利用を推進します		
主な取組	R7計画	R7実績
動物園の飼育展示業務における廃棄物等の削減と資源化	寝藁等の堆肥化委託実施	引き続き寝藁の再資源化を実施 【上野】388,280kg 【多摩】1,055,700kg 【井の頭】46,600kg
	園内設備での堆肥化等、他園館・自治体等の事例調査	京都市動物園において、フンの堆肥化、再利用に関する事例調査を実施
教育普及事業における各種資材等の見直しや再利用の促進	- クイズシートやワークシート等教材の素材にFSC認証紙を採用する等、配布物に関する環境配慮の推進 - 園内の企画展や外部出展などの展示解説において、再利用可能な什器等を積極的に導入	4園で教育目的に配布する印刷物については、可能な限りFSC認証紙や再生紙を使用 ＜例＞ 【上野】ゴリラの日の観察ビンゴ、ビンゴdeかんさつ、パンダうちわ、お花見マップ、ZOOTODAY 【多摩】動物の自己紹介カード、コアラ来園40周年記念パンフレット、園内イベントちらし、イモリ保全パンフレット 【葛西】新水族園PRイベント、ホウボウのペーパークラフト、ユウゼン保全パンフレット、小笠原マイマイ保全パンフレット 【井の頭】花ごよみ、センサーマップ、彫刻園パンフレット、企画展西望アニマルズちらし - イベント実施の際に参加者に配布するノベルティについても環境への負荷が小さいものを選択 ＜例＞井の頭と葛西では「のんびり楽しむ動物園水族園ドリームナイト&イブニング」参加者にリサイクルコットンを使用したエコバッグを配布 - 企画展では再利用可能であるものやリサイクル可能な素材を使用 ＜例＞ 【上野・葛西】展示に使用したアルミ複合版等を、使い捨てにせず繰り返し利用 【多摩】企画展においてパンチボードに直接シートを張り、貼りパネの使用量を削減 【井の頭】企画展において再利用可能な木製の単管パイプを使った組み立て式の什器を使用
飲食・物販店における各種資材等の見直しや再利用の促進	環境負荷低減につながる資材等の調査	【4園】 - FSC認証紙を使用した紙カップへの変更、カップや蓋をプラスチックから紙に変更してプラスチックの使用量を削減 【上野・多摩・井の頭】 - 店舗で使用するビニールラップ削減のため、洗って再利用のできる蓋を一部導入 【上野】 - さるやまキッチンで使用する使い捨ての紙カトラリーの一部をシルバーのカトラリーに変更し、使い捨ての運用を中止 - 油酸化試験紙を導入して廃油回数を減らし、フライヤー用食用油の廃棄量を削減 【多摩】 - サバナナキッチンにおいて、レシピを紙からタブレット運用に変更し、店舗の紙使用量を削減

戦略3 循環型社会への寄与

行動計画① 各種資源使用量の削減と再利用を推進します		
主な取組	R7計画	R7実績
緑の再資源化の推進	剪定枝葉や伐採材、飼育施設で組木として使用した丸太など、維持管理で生じた発生材の再資源化を推進	【上野・多摩・井の頭】園内で発生した剪定枝葉を獣舎で餌として活用 【上野】ジャイアントパンダの残餌の竹をチップ化し、木チップ舗装として活用 【多摩】園外の再資源化施設に約170 t の剪定枝葉を搬出し有効利用、レッサーパンダやカワウソ展示場内で剪定枝を組木等に再利用 【葛西】既存花苗等、維持管理で生じた発生材の再利用を推進 【井の頭】リスの飼育で使用した丸太を再利用し苗圃の柵を更新、剪定枝を展示場の組木等に再利用
行動計画② 飲食店の食品ロス低減に取り組みます		
主な取組	R7計画	R7実績
飲食店の食品ロス低減	園内レストラン、ファストフード店におけるフードロスの状況分析と改善案の策定	- 前年度に引き続き、総務部と4園の飲食店担当者を中心とするワーキングを開催し、「閉店間際はオーダー制にして調理食材の在庫をしない」等のフードロス削減に向けた取組項目を掲げて実行した結果、ロス率（売上に占める廃棄額の割合）は1.40%から1.33%となり、前年度比-0.07ptを達成 - 店舗及び取引問屋の在庫状況の把握や在庫過多の商品の点検により、フードロスの状況を分析するとともに、4園の取組状況を見える化することで、取組が不十分な領域について改善を促進
行動計画③ 環境に配慮した国際認証製品の使用など、事業の持続可能性を高める取組を推進します		
主な取組	R7計画	R7実績
環境に配慮した国内外の認証製品や食材等の取扱い拡充	- FSC認証等を使用した商品の拡充に向けた製品の調査 - 国内外の認証製品や東京都産等、環境に配慮した食材の調査	- FSC認証等を使用した商品の拡充に向けた製品の調査 - ペットボトルリサイクル生地を使用したぬいぐるみとエコバッグ - 製造過程で発生した端材を再原料化したアクリルキーホルダー - コウノトリ米を使用したPB菓子の制作 - FSC認証等を使用した商品の販売 【葛西】FSC認証紙を包装に使用した土産菓子の販売、MSC、ASC認証メニューの販売 - その他環境に配慮した製品の販売 【上野・多摩・葛西】 - アップサイクルコットンタオル、リサイクルセラミックマグカップ、オーガニックコットンバッグ、Tシャツの販売 【上野・多摩】 - コウノトリ育むお米使用（上野）と但馬地域の名産を使用した特別メニューの販売（多摩） 【葛西】 - 廃棄ロスになっていたエビの頭をメイン原材料に使用したチップスの仕入れ販売（NB）、八丈島の東京産の食材を使用したメニューの販売

戦略 4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化

行動計画① 地球環境保全の推進に向けた実践的な組織体制を構築します		
主な取組	R7計画	R7実績
地球環境保全に関する意識啓発と人材育成	協会の社会的使命に関する研修時に「地球環境保全」の視点を強化して対象者に実施	- 新入職員研修において、本戦略の概要を説明するとともに、担当部署より各戦略に関する主な取組について解説することで、地球環境保全に関する意識啓発と人材育成を推進 - 協会理解促進研修を通じて、地球環境保全に対する意識醸成を図ることを検討
	職員自身の行動変容を促す企画（研修プログラム等）を若手中堅職員が主体となり部門横断的に検討	フードロス削減や環境問題についての知識を深めるため、レストラン等の若手中堅職員が埋立処分場や中間処理施設を見学
地球環境保全の積極的な情報発信	- 公式ホームページを全面刷新し、当協会の「地球環境保全」に関する取組の発信力を強化 - 地球環境保全を主要テーマとした園内イベントや外部展示会等に出展し、対面コミュニケーションを通して情報発信（2回以上）	- 令和6年度の取組状況をホームページで公表 - 公式ホームページを全面刷新し、当協会の「地球環境保全」に関する取組の発信力を強化 - 園内外のイベント、展示会等で地球環境保全行動戦略を紹介（合計3回） 10月：井の頭自然文化園で開催された「ヤマネコ祭」（ブース来場 1,070名） 12月：国際展示場で開催された「エコプロ2025」（ブース来場 1,698名） 3月：上野動物園で開催された世界野生生物の日のイベント「買って・知って まもるシェ！」（ブース来場 762名）

戦略 4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化

行動計画② 多様な主体との連携を強化し、地球環境保全のための事業を推進します		
主な取組	R7計画	R7実績
野生生物保全基金の運用を通じた域内保全活動の支援	- 助成事業の着実な実施による域内保全への貢献 - 助成対象活動報告会の実施、研究成果の定期刊行物への掲載	- 新たに一般部門 7 件、中高校生部門 5 件、東京動物園協会保全パートナー部門 1 件の保全活動ならびに調査研究への助成を開始（保全パートナー部門 2 件への継続助成を含め、総額1373万3150円を助成） 12月に活動報告講演会を開催し、それぞれの活動要旨を公式サイト「東京ズーネット」で公開。また、保全パートナー部門の助成先によるシロハラサギ保全の記事を東京動物園友の会の雑誌「どうぶつと動物園」に掲載するなど、野生生物保全基金のPRとなる普及活動を展開
	企業・団体・大学・自治体等との連携・協力 他団体等と連携した普及啓発プログラムの実施や地域イベント等への参画	多様な団体と連携して普及啓発プログラムを実施 ＜例＞ 【4園】2～3月「おがさわらのなかまたちスタンプラリー」（小笠原村産業観光課及び都営交通） 【上野】3月 世界野生生物の日のイベント（野生生物の保全に取り組む8団体） 【多摩】9月「ツキノワグマについてもっと知ろう」（日本クマネットワーク） 【葛西】1月「つどえ オロロ〜ン！」（北海道羽幌町） 【井の頭】10月「ヤマネコ祭」（野生生物の保全に取り組む10団体）
	連携・協力を通して園内外の自然環境の保全に貢献する新たな企画等の検討	上野において園内で回収されたペットボトルの水平リサイクル（ボトルtoボトル）導入を検討